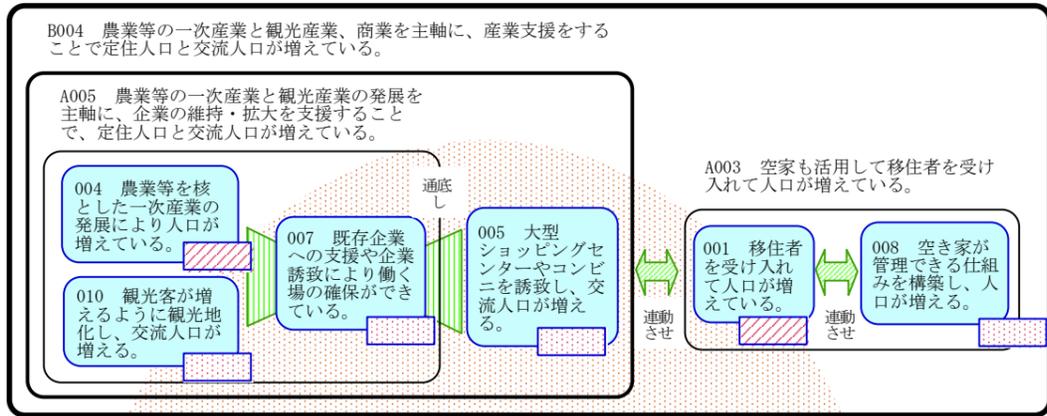


校区が5年後・10年後こうなるといいなと思うものはどれですか？
「質問項目2」から浮かび上がる校区の姿

伊関校区：全体集計

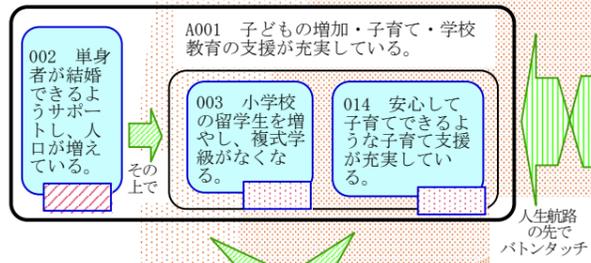
3 現役世代の活躍：地域資源に根ざした産業の再起動による人口と交流の拡大

C001 農業等の一次産業と観光産業、商業を軸に、産業支援・住宅支援をすることで定住人口と交流人口が増えている。



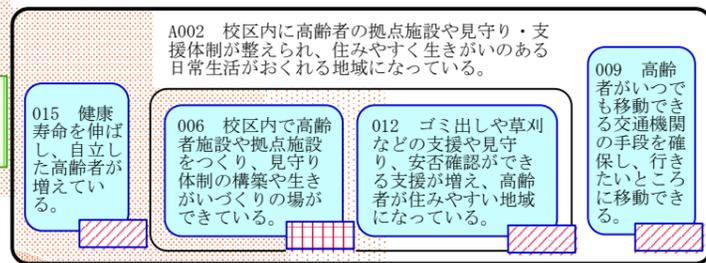
2 次世代の継承：育成支援の充実

B003 結婚・子どもの増加・子育て・学校教育の支援が充実している。



4 老後の生活：生きがいのある日々

B002 高齢者が自立した活動ができる地域生活基盤と見守り・支援体制が整えられ、住みやすく生きがいのある日常生活がおくれる地域になっている。

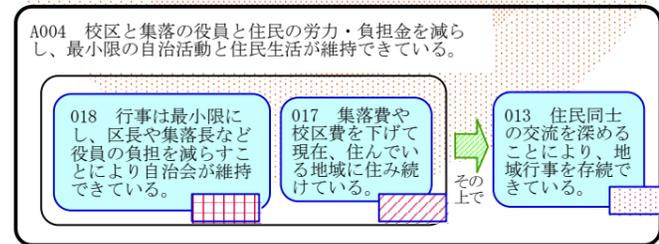


6 地域が変わらない価値：自然と文化のなかの暮らし

016 このまま穏やかな自然や文化のなかで暮らしていきたい。

5 地域共同の保持：負担軽減による自治活動

B001 校区と集落の自治活動の住民負担を軽減したうえで、伝統的な地域自治活動が維持できている。



1 防災対応：災害に強い地域づくり

011 災害時に避難できる頑丈な避難場所が確保され、災害に強い地域づくりができている。

伊関校区「地域づくりアンケート」回答結果

(2022年アンケート)

【分析結果】

「質問2の項目」(5年後・10年後こうなるといいな)から浮かび上がった校区の姿は、次のようである。5年後・10年後の願う校区の姿は、まず社会基盤となる「防災対応」で、「災害に強い地域づくり」にある。災害時に避難できる丈夫な避難場所が確保され、災害に強い地域づくりができている。

これを基盤に、人生航路に沿って3つの要素の実現を思い描いている。

第1は「次世代の継承」で、「育成支援の充実」にある。結婚・子どもの増加・子育て・学校教育の支援が充実している。

第2はこの人生航路の先にある「現役世代の活躍」で、「地域資源に根ざし産業の再起動による人口と交流の拡大」にある。農業等の一次産業と観光産業、商業を軸に、産業支援・住宅支援をすることで定住人口と交流人口が増えている。

第3はこの人生航路の先にある「老後の生活」で、「生きがいのある日々」にある。高齢者が自立した活動ができる地域生活基盤と見守り・支援体制が整えられ、住みやすく生きがいのある日常生活がおくれる地域になっている。

そしてこの人生航路の先で、第1の「次世代の継承」へとバトンタッチする。

このよう人生航路を歩む立脚基盤をなすのは「地域共同の保持」で、「負担軽減による自治活動」にある。校区と集落の自治活動の住民負担を軽減したうえで、伝統的な自治活動が維持できている。

このような姿の背景に潜在する「地域が変わらないか価値」は、「自然と文化のなかの暮らし」にある。このまま穏やかな自然と文化のなかで暮らしていきたい、という思いである。

以上が、校区の5年・10年先の「将来像」である。

■アンケート集計結果

ランク	得点幅	模様
A	121~150	■
B	91~120	■
C	61~90	■
D	31~60	■
E	1~30	■

(最高得点：147点)
(回答者数：206人)

019 その他：

- (1) 2021年7月9日
- (2) 情報工房
- (3) 校区アンケート「質問2」の質問18項目
- (4) 山浦晴男

注1) 文頭の数字は、質問項目の番号を示す。
注2) 文頭のアルファベットは、階層構造の段階を示す。
注3) 左上の丸数字は、分析結果の解説のストーリーの流れを示す。